

# 登山月報



ガッシャーブルII峰(8,035 m) 写真右



第34回リードジャパンカップ (LJC2021) 報告	2
第148回 Mountain World	5
<b>新連載</b> Enjoy Climbing	6
第13回ウインタークライマーズミーティング (WCM) in 滝谷報告	7
山の自然環境を考える (その3)	10
UIAA MedCom meeting 報告	11
J M S C A、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

# 第34回リードジャパンカップ (LJC2021) 報告

スポーツライミング第34回リードジャパンカップを3月26日～28日、千葉県印西市の松山下公園総合体育館で開催しました。今回は、決勝の28日のみですが、久しぶりの有観客で実施。緊急事態宣言の解除、会場の広さ、施設の換気能力の高さから有観客を決めました。当日の入場者は114人(2階の一部、定員150人)でしたが、選手からも観客の応援は嬉しかったとの意見もあるなど、会場の雰囲気もあがり実施してよかったと感じています。今後、新型コロナの感染状況によりますが、すべての大会での有観客は難しく、施設的环境によって検討していきたいと考えています。

## Report 1 競技

男子では、檜崎智亜が欠場するなか、若手の台頭に対してベテランの頑張りが目立った。決勝には、藤井快、天笠颯太、島谷尚季、村下善乙、吉田智音、田中修太、樋口純裕、百合草碧皇が進出。中間から上部はかなりの強傾斜にパワーとバランスな課題が続くルート。18手目からボリュームのアンダー部分へダブルダイノで移るムーブが最初の核心。百合草、村下、島谷が失敗。そして、トラバース気味に左上して行き、ゴール手前のスローパーが第2の核心。樋口、吉田が保持し34+。最後の藤井は、そこを保持できず手前の33+に終わる。カウ

## Result

順位	男子			決勝			準決勝		予選	
	氏名	ゼッケン	高度	高度	順位	ルート1	ルート2	順位		
1	吉田 智音	M038	34+	35+	5	44+	26+	9		
2	樋口 純裕	M046	34+	34+	7	45+	30+	1		
3	藤井 快	M007	33+	39+	1	40	32+	4		
4	天笠 颯太	M043	31	39+	2	43	26+	10		
5	田中 修太	M033	20+	35+	6	41	26+	14		
6	島谷 尚季	M028	18+	37+	3	39	32+	5		
7	村下 善乙	M003	18+	37+	4	44	29+	7		
8	百合草碧皇	M008	18+	34+	8	38+	32+	8		

順位	女子			決勝			準決勝		予選	
	氏名	ゼッケン	高度	高度	順位	ルート1	ルート2	順位		
1	森 秋彩	W009	39	TOP	1	42+	TOP	1		
2	野口 啓代	W038	37+	36	4	41+	41+	5		
3	中川 瑠	W017	36+	33+	8	41	39+	9		
4	谷井 菜月	W035	34+	40	2	TOP	41+	3		
5	阿部 桃子	W020	34+	35+	5	42+	TOP	1		
6	田嶋あいか	W024	33+	36+	3	TOP	40+	4		
7	柿崎 未羽	W028	33+	34+	7	41	34+	12		
8	平野 夏海	W013	14+	34+	6	41+	41+	5		

ントバックで、昨年2位の吉田の優勝が決まる。

女子は、伊藤ふたば、野中生萌が準決勝で姿を消す混戦模様の中、森秋彩、谷井菜月、田嶋あいか、野口啓代、阿部桃子、平野夏海、柿崎未羽、中川瑠が決勝進出。

女子も上部が強傾斜のルート。いきなり最初の中川が、36+まで伸ばすが、その後の選手は33手を過ぎたムーブに戸惑い失敗が続く。その状況下、野口は迷わないムーブでその核心を越え37+を獲得。オリンピックに向けてBJC、SJCと調整の中さすがのパフォーマンス。そして最後の森の登りが圧巻だった。核心の部分でムーブが決まらず、強傾斜の中クライムダウン

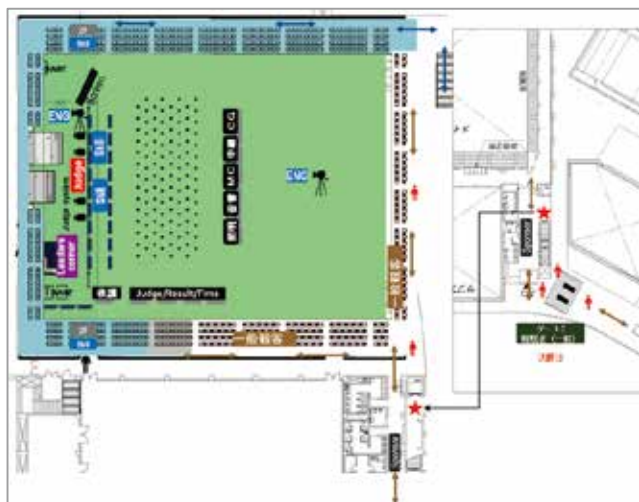


し、立て直しての核心突破。野口の37+を越えさらに進むがタイムアップの39をマーク。森は、これでリードは4回目の優勝。今年は、B J C 2021に続いて2冠を達成する。

## Report 2 運営

### 1. ゾーンコントロール、有観客

今回の有観客では、関係者と一般観客の接触をなるべく少なくするようゾーンを設定(2階の一部、入退場も2階より)。施設の換気条件より入場数は948人となるが、さらにその半分474人を今大会の入場数とし、選手、スタッフの数を引いた150人を観客数とした。



### 2. 入場数

	26日	27日	28日
選手	52	71	16
帯同	17	35	10
スタッフ・業者	72	89	114
メディア	19	20	30
来賓	1	1	15
一般観戦	0	5	114
合計	161	221	299

\*一般観戦；県別(人)

千葉49、東京32、茨城10、埼玉6、神奈川4、奈良3、佐賀2、栃木2、愛知1、大阪1、岐阜1、静岡1、長崎11、福井1 計114(内 選手、関係者45)

### 3. メディア(取材・クリッピング)、Youtube

取材：28社 51人

新聞 25記事、Web39ページ、TV 5番組

27日 NTV GOING!

28日 NHKサタデースポーツ、NTV GOING!、CX S-PARK

29日 NTV ZIP



Youtubeでの観戦は、決勝男子で1619、女子で1930となり昨年を超える視聴(目指すは5000)。またB J Cから始めた、チャットも500を超え観戦環境として成果を上げてきていると感じます。

コロナ禍、試行錯誤が続いていますが、昨年から続けてきた大会はこれで7大会。開催に理解と協力頂いた印西市、施設(松山下公園総合体育館)、千葉県山岳スポーツクライミング協会、そして選手、選手関係者、スタッフ、協力会社、協賛様、放送関係者に感謝。

(村岡正己)





## Report 3 スタッフコメント

### 1. チーフルートセッター 松島 暁人

今回は、コロナ禍の影響で日数、時間が少ない状況下でのルートセットとなり、かなり厳しいスケジュールでした。

それは、ルートを詰め切れない部分もあり不安な要素を抱えながらの大会でした。そのような中でも、ワールドカップが始まることもあり、選手の調整に繋がるような課題をセットすることも意識しました。

大会は、有観客もあって盛り上がり、決勝での選手のパフォーマンスを見るとうまくセットができたと感じます。ただ、日数の件に加え、昨今ホールドも大きく、労力を必要とするようになり、足場での作業の限界を感じます。安全面を含め改善（室内においても高所作業車の使用）の検討が必要と感じています。みなさま、大変お疲れ様でした。



### 2. 副サービスマネージャー 野村知子

(千葉県山岳・スポーツクライミング協会)

L J C 2021 も、コロナ禍中の先行大会と同様、スタッフへは、大会2週間前から、健康観察アプリ Metell への入力または健康チェック表への記入と、接触確認アプリ cocoa を入手してもらうよう、また、PCR 検査では大会前日に結果がわかるよう日程を指定して通知しました。

先行大会と違うのは、会場となった印西市松山下公

園総合体育館は、公園内のテニスコートや野球場などの利用者が、体育館窓口とトイレを利用するために、入館する点です。すべてのL J C 2021 関係者と一般の方の入り口と動線を分け、接触しないよう要所にスタッフを配置しました。

また、L J C 2021 は3月28日男女決勝が有観客でした。26日、27日の予選と準決勝は無観客で行われています。28日、観客は、2階の入り口から受付を経て入り、観客席のある2階のみの入場で、1階は立ち入り禁止です。1階の選手たちのいるエリアとは分け隔てています。2階観客席は、固定された席を市松模様状に前後左右に間を開けての使用でした。

観客席数は150。整理券を用意して、整列時に配り始め、券を得た人は一旦立ち去りました。開場時間近くになって荒天になりました。列を体育館施設の軒下に誘導し、三々五々受付に来た人から手指の消毒、健康チェック表の体温以外を記入してもらい、整理券番号順に列に並んでもらう。入場時に検温とその記入という過程にしました。スタッフの臨機応変の対応でした。健康チェック表記入に時間がかかるので、記入を二回に分けたほうが、受付で密にならず、よかったですと思います。健康チェック表のおもてと裏に観客席の座席番号欄があり、着席後、出入り口近くの座席番号記入用の机で、座席番号も記入した健康チェック表を回収しました。

新型コロナ感染防止として、上記以外でもスタッフ一人ひとりによる自主的な行動が随所がありました。たいへん感謝しております。



## 第148回 Mountain World

### コロナ禍のヒマラヤ登山 ネパールに集中

池田常道

1年余にわたって世界を脅かしてきた新型コロナウイルスの蔓延は終息の気配も見えない。遅まきながらワクチンの接種が始まったとはいえ、医療先進国だったはずの日本ではまだほんの少し。国産品がないため輸入に頼らざるを得ないから、当然のように品薄状態。真っ先に必要とされる医療従事者や重症化しやすい高齢者にまで行きわたっていないという体たらくだ。対策を怠った為政者の責任は小さくない。

そんななか、1年延期された東京オリンピックの聖火リレーは始まったものの、祝賀ムードの盛り上がりはいまひとつ。大都市を中心に感染者は増え続けるばかり。池江璃花子の復活や松山英樹のマスターズ初優勝ぐらいで暗い気分が吹き飛ばすわけなどあるまい。

\*

ヒマラヤ登山も、昨年春は一部を除いて自粛を強いられた。稼ぎ時の春を禁止せざるを得なかったネパールは、チベット側が登山禁止を継続したためエヴェレスト、アンナプルナ、ダウラギリを中心に24隊180名(4月2日現在の集計)の外国人に対して許可を与えた。内訳はエヴェレストに11隊101名、ローツェに2隊7名、アンナプルナに4隊44名、ダウラギリに2隊12名となっている。8000m峰以外ではヌプツェの2隊9名が目立っている。

エヴェレストに挑む101名のうち7名が無酸素で挑む計画を明らかにしている。

エルサルバドルのカリナ・アルーエとキューバのヤンディ・ヌニェスの両女性、オランダのローランド・ファン・オスとフィンランド女性サナ・ライスタッカのカップル。他は男性でイギリスのサイモン・フェリア＝メイ、ハンガリーのチャバ・ヴァルガス。インドのアルジュン・ヴァイパルはかつて16歳で最年少登頂者となったことがある。アメリカのコリン・オブレイディは合わせてローツェも狙うという。

アメリカのマイク・ポズナーは2017年の"I Took a Pill in Ibiza"でグラミー賞候補になったシンガーソングライター。2019年に北米大陸2851kmを東から西へ、6カ月と3日かけて徒歩で横断した経験がある。ロッキー山脈を越えたときにエヴェレストに登頂する

アイデアを得たという。宣伝のためではなく、マナスル登頂経験があるジョン・ケドロスキー(41)にトレーニングを受け、一緒に各地の山に登って、エヴェレストで遭遇するあらゆる条件に対応すべく鍛えられてきたという。

エヴェレストに100名以上が殺到するということは、それに匹敵する数のシェルパも頂上に向かうわけで、上部では渋滞の発生も懸念される。2019年6月号に掲載したニルマル・プルジャの写真ほどではないにしても、歩みの遅い無酸素登山者はスピードを上げて追い抜きをかけるわけにもいかず、下手すれば自分が渋滞の原因になってしまう恐れもある。また、隊列の動きが止まった際に、長時間の順番待ちを甘受する余裕などないから、すみやかに下降する術を見つけなければならないだろう。

\*

アンナプルナのセブンサミット公募隊は頂上攻撃態勢に入っていたが、4月15日の35名は7400mで諦め、全員頂上を得ることなくC4(7300m)まで引き返した。冬にあまり雪が積もらなかったため氷壁がむき出しになっていて、追加の固定ロープが必要になったからだった。急遽ヘリが呼ばれ、800mのロープと酸素ボンベ、食料がC4に投下されたという。

普通なら固定ロープが不要な区間ただけに偵察が甘かったのか、準備不足だったのか、如何に公募隊とはいえ、このような手段が許されるならセオリーに反する行為ではないだろうか。

以前、エヴェレストのアイスフォールをスキップしてヘリでウェスタン・クウムに上がって頂上に立った中国女性がいたが、一線を越えた手段だと言うべきだろう。ヘリによる荷揚げは、緊急の救助作業に限って許容されているのだから。

\*

ダウラギリには、スペインのベテラン、カルロス・ソリアも参加している。1998年以来じつに12回目の挑戦で、彼はいま82歳になって戻ってきた。14座完登までシシャパンマとダウラギリを残すだけとなったソリアは、2017年には、頂上稜線に抜けるクーロワールを間違えて、8050m地点から引き返したこともある。

その翌年にヒザを痛めたが、9カ月トレーニングして再挙。しかし、このときも失敗に終わった。今回成功したら、次の秋にシシャパンマに登って長年の夢を完成させるつもりだ。

## 増本亮&さやかの Never Ending Journey ⑥

夫婦二人の夢だった長期クライミングツアー。こんなに長く旅に出るのは、一生に一度だけだと心に決めて出発したはずだったのだけれど…。日本に帰ってきた私たちは次なるクライミングトリップについて話し合っていた。最高に楽しかった旅をもう一度！という気持ちももちろんあったけれど、やり残した宿題が我々の心をもう一度旅に向かわせていた。私にとってはフリーライダーの完登が、唯一にして最大の宿題だった。

でも、私の気持ちはただまっすぐにフリーライダーに向かっていると言ったら嘘だ。もう一度大きなチャレンジに臨むことに躊躇していた。昔から強い女性クライマーよりも、思うようにクライミングできないと文句を言いながらも子どもと笑い合っているママさんクライマーに憧れを持っていた。いつか私もあんな風になりたいと微笑ましく眺めていた私も今年35歳。個人差はあるだろうけれど、子どもをのぞむ女性にとってはそろそろ次のライフステージを考えてもいい年齢。クライミングはキリがないものだってわかっていたからこそ、長期ツアーを一つの節目にすると心に決めて旅に出ていた。

だから、悩んでいた。次のトライで完結できるかわからないフリーライダーという未知なる旅を、まだまだ続けていっていいものなのか。フリーライダーにトライしてもしなくても、人生が大きく変わることはないだろう。でも、と思う。もう一度このルートと向き合うことは自分にとって小さいとは言いきれない意味があるのではないだろうか。最終的には「行こう！」という前向きな夫の声に押され、私はもう一度旅に出ることを決めた。そして、せっかく行くならと南米パタゴニアまで足を伸ばしちゃおう、と勢いづいてしまうのが、良くも悪くも私たち夫婦なのであった。

出発までテフロンコーナーのことばかり考えて過ごした。自宅の倉庫に再現してみたり、凹角のルートが無理やりステミングで登ってみたりと、自分なりのトレーニングを積んだ。けれど、結局登れるという確信は持てずじまいで、不安なまま。そして気づけば、あっという間に出発の日を迎えた。2019年10月、私たち夫

フリーライダーのハイライト、  
エンデュロコーナー

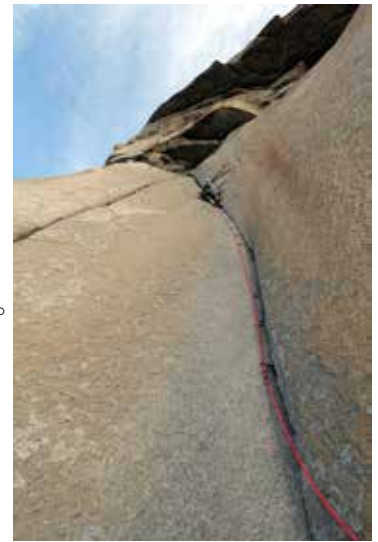
婦はヨセミテから始まる北米から南米への5カ月間の旅に出発した。

ビッグウォールを登るにあたって、スタイルを考えることはとても大切だ。ベストなスタイル、それはグラウンドアップでのワンプッシュ・オールフリーだろう。理想を前に、私はどうするか、と悩んだ。全ピッチをリードしワンプッシュで切り切るということを最優先に、昨年のトライを振り返り作戦を考えた。①一番の懸念であるテフロンコーナーは事前にトライし、先にこのピッチのRPを目指す。②ネックとなる荷上げに対しては、事前にルートの途中にポーターレッジや食糧、水などをデポしておく。③そしてその際ポイントになるピッチもワークする。つまり、ルートを上からワーク&デポ。それからのワンプッシュ・トライ。胸を張って言えるものではないけれど、これが自分なりに考え納得した上で決めたタクティクスだ。

10月後半、私はまずテフロンコーナーをRPすべく、エルキャップに取り付いた。テフロンコーナーの核心は時間だ。日が当たると途端に状態が悪くなり難易度が上がってしまうため、日の出から日が当たるまでの約2時間で勝負しなければならない。テフロンコーナーは凹凸が極めて少ないツルツルの壁で登るごとに手や足の位置が変わり、ムーブというものが組み立てにくい。ホールドやスタンスを探るのではなく、この壁に合わせた自分なりの体の動きを導き出す必要がある。出だしから躓き何度も落ちたけれど、次第にコツがわかってきた。手のひらの力の入れ具合や向き、手と足の距離感。そして一番大切なことは、足を信じること！1日目に切り切ることはできなかったけれど、完登の可能性を感じることができ、明日へと希望をつなげた。

2日目。手に力を込め続けるため、手のひらの皮が消耗していた。昨年皮が大きくむけてしまい試合終了となってしまったのは苦い思い出。時間も刻々と過ぎ、焦る気持ちが押し寄せる。夫の励ましに勇気もらい、目の前の一手一歩に集中し、少しずつ高度を上げていった。

感情が込み上げてくる、というのはこういうことを言うのだろう。終了点にクリップしたとき、熱いものが



体の芯から湧き上がってきた。フリーライダーを諦めなくて良かったと、心の底から思った。挑戦できることはなんて幸せなことなんだろう。

一旦エルキャピタンから下りた私の次なる目標は、フリーライダー・ワンプッシュ。1日かけて山頂から懸垂下降し、水や食糧のデポ、数カ所のワークをした。冬の到来も間近に迫っていた。追い立てられるようにバタバタと準備し、いよいよゴーアップした。

フリーライダーの下部ピッチであるフリーブラストは日程の関係でやむを得ず日暮れから登り始めた。慣れない暗い中でのクライミングに不安を抱えつつ登り始めたが、日中より岩が冷えて状態が良く、核心のスラブピッチは予想よりもスムーズにこなすことができた。ハートレッジからもう1ピッチ伸ばし、初日は無事終了。

体力的に一番きつい2日目。この日の核心ピッチはモンスターオフィドゥスで、その名の通り度肝を抜かれるような迫力あるワイドクラックが50mほど続く。昨年散々苦労した出だしのトラバースは難なくこなすことができたけれど、今年もワイドの旅は果てしなく続いた。カンカン照りの太陽のもと、諦めそうになる気持ちを何度も奮い立たせ、数センチかと思うくらいのジリジリとしたスピードで進んでいった。終了点に辿り着いた時はとにかく安堵。モンスターと格闘した後の私は疲労困憊で、その後のピッチは危うい場面の連続だった。どうにか落ちずに登り続け、やっとのことでテフロンコーナーの下まで来ることができた。

3日目。私は再びテフロンコーナーの基部に立った。前回よりも気温が高く状態が心配になるも、RPできた経験は大きい。でもやはり何度も落ちた。壁に太陽の光が迫る中、とにかく自分の手と足を信じ、力を込め続けた。登り切った時には、1年分の胸のつかえを吐き出すように大きな声で叫んでしまった。よかった、これで先に進むことができる。

最終日。エンデューロコーナーが最後の大きな核心、かつ私はフリーライダーのハイライトだと思っている。壁に走る一本の線。思わず見惚れてしまう美しさがこのピッチにはあった。深呼吸して登り始める。出だしの甘いジャムの連続をなんとか耐えて、核心のフィンガークラックをこなした。最後はカムを決める余裕はなく、前だけを見据え終了点目指してレイバック。終了点にクリップし見下ろすと、夫の満面の笑み。エルキャップという最高の舞台上、最高のクライミングができたなんて、夢のようだった。

天候が崩れ始める中、山頂目指して登り続けた。最

後まで気の抜けるピッチは一つもなかった。そしてトップアウト。終わったんだ。登れたんだ。嬉しさと安堵と感謝とで、言葉にならない気持ちだった。こんなにも長くて濃い4日間は今までの人生の中で経験したことがない。

大きすぎて、無謀な目標だと思っていたフリーライダー。でも、チャレンジしてみなければわからないことはたくさんある。自分の力をもっと信じる。そして勇気を出して踏み出す一歩がどれほど自分の可能性を広げてくれるのかということ。フリーライダーというルートは教えてくれたように思う。

11月後半、ヨセミテ溪谷は雪が降り始め、クライマーたちは続々とヨセミテを離れていった。でも、私たちはまだここでのクライミングを諦めてはいなかった。次は夫の番。私たちはもう一度エルキャップを目指した。

## 第13回ウインタークライマーズミーティング (WCM) in 滝谷報告

2021年1月、首都圏で緊急事態宣言が再び出された。各種催しの開催判断について国民の良識に委ねるばかりの政府の対応に直前まで悩んだ。長野県の北信地域も微妙な情勢になるにおよんで、2月6日～7日(米子不動)で予定した第13回WCMは中止することにした。残念ですし、開催しても問題なかったのではないかという悔いも残った。

2月末、日山協の岩崎さんからの「WCM、どうします？」という連絡がきっかけとなり再起することにした。

継続というのは尊いことではあるが、WCMはそれを目的としてはいない。「参加者全員による共催」という理念がある。再びWCMを企画すること(年度内で!)については「無理でしょ!」と速攻思った。しかし3日も経たないうちに、自分の個人山行(もともと私的に3月末は滝谷に行きたいと考えていた)の延長でプチWCMとして企画してみようかな、と。そうすると途端にモチベーションが上がってきて、「なんでこんな面倒なことを？」(前々回の滝谷ではそれなりに苦労した経験があるので)と自分でも不思議に思いながらあれこれ考えてしまった。

さて、ダメ元のかなり無責任な思いつきで北海道の宇野さんと星野さんにメール(この段階ではかなり不透明で恐縮でしたが)してみた。期待以上の積極的な返事をいただき、私の腹はほぼ決まった。つまりは、岩崎さんが強く背中をおしてくれたことが大きな1歩だったのだらうと思います。

もともと13回に参加表明してくれたクライマーに声掛けして、会場：滝谷で募った。結果、20代の若手が5名も初参加してくれてとても新鮮だったと思う。

28日に悪天の予報があったため、27日の1 day という強行軍となってしまったが、前々回の滝谷WCM(11回)より下山時刻は早く、スマートにおさまったと思う。(悪天候の予報のため夜間登攀はありえないという了解もあった。)

終わってみると、なかなか充実した小回りの利く良いWCMだった。無事終了したことをこうして報告できることに感謝したいと思います。

## 1. 活動概要

3月27日(土) AM 2:45 新穂高温泉集合～3:15 新穂高温泉発～6:15 滝谷出合～9:00 滝谷第2尾根末端～各ルートクライミング、滝谷下降～21:30 滝谷出合～23:15 新穂高着(約20時間行動)

## 2. メンバー

北海道：星野千春(旭川山岳会)、佐藤雄貴(北大山岳部)、竹中源弥(北大山岳部)

長野県：鈴木遼叡(松本CMC)、永山虎之介(信大山岳会)、竹田昂(信大山岳会)、馬目弘仁(信大大学士山岳会)、宇井太雄(無所属)

富山県：大瀧一哉(富山登攀クラブ)

## 3. ルート

クラック尾根～C沢左俣：星野、竹田

第3尾根～C沢左俣：永山、鈴木

P2フランケジェードルルート～C沢左俣：馬目、佐藤、竹中

P2フランケの左方Vr. 同ルート懸垂下降～B沢：大瀧、宇井

## 4. 感想

昨日は楽しいクライミングをありがとうございました。自分の力量で通用するのか、不安はあったけど参加して本当によかったです。馬目さんとザイルを組んで学ぶことは多く、同世代からもいい刺激をたくさんもらえました。ボルトルートやゲレンデに近い岩場でのクライミングもいいけど、やはり自分は山でのクライミングが好きなんだと実感しました。(竹中源弥)

◇ ◇ ◇

コロナの影響で1度は中止になってしまった今年度のWCMでしたが、規模を縮小して開催すると声を掛けて頂き今年度も参加させて頂きました。今回は信州大学の現役の方とパートナーを組ませて頂きましたが、私としては学生とパートナーを組むのは初めての経験でWCMに行く前は、話が合うか? とか、ついて



行けるか? とかドキドキしていましたが、実際行ってみれば、いつもの様に一緒に山を楽しむ事が出来たと思っています。やはり山が好きなの同士世代は超えられると思えました。パートナーの清々しい姿や、クライミング中に話した夢の話など、とても印象的でとても楽しかったです。また今回登ったクラック尾根ですが、滝谷入門ルートとして紹介されているルートでしたが、尾根を気持ちよくグイグイ登り最後は山頂にダイレクトに出られる好ルートでした。登りながら、スキー担いで登り、下りはB沢とか面白そう、とか考えてしまいました。今回も世話役をして頂いた馬目さん。本当にいつもありがとうございます。(星野千春)

◇ ◇ ◇

20時間行動での日帰りの滝谷、なかなかハードでしたが、エネルギーみなぎるWCMメンバーに引っ張られるかたちで取り付きまでなんとか辿り着けたが、この時点で体力はかなり消耗。芝工大ルートを目指したはずが、間違ったルートを登ってしまいました。取り付きから壁を見ると一際目立つすっきりした凹角に惹きつけられ、途中ルートが合っているのか疑いはしたが、近づくにつれて「いけるんじゃない」と他には目も暮れなくなっていた。ヤバそうなら、すぐに引き返そうと逃げをつくりつつも取り付いたらロープいっぱい近くまで伸ばして解除のコール。フォローで登ると、めちゃくちゃ悪く、これは登ったらダメなやつだと思いつつも、パートナーの宇井さんの判断を尊重した。さすがにこの先のハングとスラブ面でテンションが入り、これ以上行けないのではと焦りを感じた。時間も遅くなっている。ここで馬目さんから夜間登攀はないよ、と言う声が聞こえ、我に帰った。ルートは間違えて際どい状況になりましたが、終わってみれば、アプローチ、ルーファイ、難しい壁の登攀、迅速な下降といろいろな要素が経験でき充実した山行でした。

WCMには、これで3回参加させていただいておりましたが、大勢のメンバーで登る機会はなかなかないので、いつも楽しませてもらっています。リスクの高い冬



期登攀ですが、サポート体制があることで安心感があります。世話役の方にはいつも感謝しております。ありがとうございました。（大瀧一哉）

◇ ◇ ◇

2尾根フランケの芝工大に取り付く予定だったが、勘違いで別ルートに登ってしまい、あと1ピッチ残して下降。ルート間違いは反省すべき点ではあったが、それはそれで濃い内容で、ドキドキ、ハラハラの滝谷クライミングを存分に堪能することが出来た。長い行程で、滝谷のワンデーはさすがにきつかったが、久々に自分を追い込めて、良いトレーニングとなった。また、他のクライマーと交流を深めたことはとても有意義な山行だった。（宇井太雄）

◇ ◇ ◇

WCMに参加して、アルパインクライミングに必要な体力、技術、経験、全てにおいて力不足を感じた。来年こそリードしたい。この度はありがとうございました。（佐藤雄貴）

◇ ◇ ◇

1ヶ月前、新穂高に向かう道を歩いている時、遙か上方に要塞のごとく浮かんでいるその岩壁を一瞥して、まだ僕の行ける場所じゃないとすぐ目を逸らしてしまった。その後、利尻岳遠征を終え、もしかしたら自分の行ける山はもっともっとあるのではないかと一抹の希望を抱き始め、車の中で虎之介さんと「やっぱ滝谷行きたいよねえ」と話していた丁度その数時間後、馬目さんから滝谷での冬期登攀へのお誘いメールを受けたのだ。私の思い描く理想の登攀において、対象のスケールのデカさは非常に重要な意味を持つ。それに加えて山頂にダイレクトにトップアウトするラインに強烈に惹かれる。その点において今回のクラック尾根の登攀はまさに絶品であった。岩が硬く、プロテクションも良好で、登っていて快い。コンディションも雪や氷の付着がなく、随分と登りやすかったのではないだろうか。パートナーの星野さんもとても良い方だった。僕を大学生としてではなく、1人のクライマーとして接してくださっているのが嬉しかった。トポ通りに行くと最終ピッチは左上して北穂小屋横にトップアウトすることになっていたと思うが、出来るだけ山頂にダイレクトに抜きたいとワガママを聞いてもらい、最後はルンゼ状から北穂山頂にトップアウトできた。星野さんの器の大きさに只々感謝です。今回のWCMで強く感じたのは、自分がデカイ山でフリークライミングをするのが好きなんだということだ。デカイ山にはそれだけ多くのリスクが伴うものだが、それでもそこ

で登攀をすることには確かに価値があるように思う。具体的にその価値を言語化することは今はできかねるが、山のデカさを見たときに自分の内から込み上げる衝動を僕は否定することができない。改めまして、この度は経験の浅い未熟な僕に、このような素晴らしいアルパインクライミングの機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。これからもっと、自分のアルパインクライミングを深めていきたいと思います。

（竹田 昂）

◇ ◇ ◇

翌日が荒れるという予報のため、急遽28日日帰りとなったWCM。1dayの強行軍に自分の体力が耐えられるかと少々不安でした。ルート選択は、他パーティーの様子を見てから遊軍的に決めようと考えていたので、前日になってもまだ決めかねていたというのが実情です。状況によっては我がパーティーを解体して再アレンジも考えていました。当日、「どこ登るのですか？（佐藤君）」と聞かれたときには申し訳なく思いました。

B沢周辺で自由に登れそうなWCMの全体状況と、取付きから見上げた壁の様子から3人パーティーでも十分いけそうだなと感じたので思い切ってP2フランケジェードルルートに取りつきました。前々から登ってみたいと思っていたルートだったので充実したクライミングを楽しみました。1Pはプアプロ気味で自分はかなり本気モード、若手のお2人はどうだったのだろう？ 壁の大きさにちょっと驚いた様子だったけど、登山の基本はしっかりした方々だと思いました。さすが北大山岳部出身、好青年です！これからが楽しみです。

さて、新穂高に下山してからの疲労が半端ない。翌日も翌々日も筋肉痛が抜けなくて…。今後滝谷1dayは自重しようかなとちょっぴりほろ苦い経験にもなりました。とにかく楽しかったです！（馬目弘仁）

◇ ◇ ◇

個人山行の延長ということで、少々気楽でした。気がかりなのはやはり天気。週間予報の段階から日曜日は天気が下り坂、北海道から来てくれる方々には申し訳ないなあというのが心配事でした。少人数だったこ



## 山の自然環境を考える(その3)

(一社)大阪府山岳連盟 会長 飛田典男

ともあり、直前に何度か行動計画をアレンジしましたが皆さんが理解を示してくれていたことに感謝です。前の週に滝谷を登ってきた鈴木遼叡君の情報はとても貴重でした。これがあるとないとでは世話役のプレッシャーが違います。

滝谷のような3,000m級の主稜線近くの岩場は、天候や積雪量、アプローチの状態、気温といった自然条件のチャンスをつかむのが全てです。今回もとてもラッキーでした。

今回で、山岳地帯開催となるのが連続4回となります。繰り返しですが、これまでは本当に幸運に恵まれただけということは肝に銘じておこうと思っています。

せっかくですので以下に意見を少々述べさせていただきます。 世話役(馬目弘仁)



### 会場の選定について

中止となった米子不動 in WCM、企画していた当日の2月7日にプライベートでクライミングに行ってみたのだが、大勢のクライマーが来ていて驚きだった。ルートがほぼいっぱいになることはもちろんだし駐車スペースもギリギリな状態であった。

このところ山岳地帯が続いたので、ゲレンデ的なエリアで気楽にクライミング&ミーティングの回も楽しいだろうと考えて米子不動としたが、WCMの開催はかなり禍根を残すことになったのではないかと想像する。ベースを置いてゆったりと構えられるWCMは、足尾か明神2,263m峰周辺くらいしかないのだろうか、と思ってしまう。次回以降の大きな課題だろう。

### WCMの今後について

海外クライマーの招待、利尻といった奥地で開催することなど、コロナ禍がやって来るまでは多様な意見や希望が出されたものだ。それらはなかなか素敵な思いつきだ。企画を夢想することは何時だって難しくはなし、楽しいことだ。今までの開催エリアの選定、期間、参加者の募り方など参考にして、いろいろ皆で模索していってもいいだろう。長期山行だっていいし、硫黄岳前衛壁のような僻地だっておもしろい。

「参加者全員による共催」がWCMの基本理念だが、各回の発起は世話役の「この指とまれ」的な企画発案によってきた。現状では、このスタイルがしばらくは続くのだと思う。それも悪くないのだけど、もうちょっと変化も欲しい気がしてきた。

WCM参加者もどんどんと世代交代していつている。若いクライマーの新鮮な考えをもとに楽しいことを実行していつていただきたいと願う。

日本の山には、その昔、獣道、獵(漁)師道、杣道、修験道若しくは間道などがあったが、登山を目的とした道は存在しなかったと考えられる。しかし、劔岳の初登頂者が修験者であったことなどから信仰の対象として登山が為されていた事実はある。これら初期の山の道は自然に形成されたもので、ほとんど人工的な手段によって整備されたのではなく歩き易さにより利用されてきたと言える。

現在の登山道は、山域で異なるようだが、山小屋や山岳団体が自主的に整備しているか、地元山岳会の有志が自治体等から僅かな資金を提供されて整備しているのが実態であり、ほとんどがボランティアと言ってよいようだ。また、一部林野庁が業者に委託しているケースもあるとの事である。勿論、環境省直轄の屋久島の様に選任のレンジャーも存在している。黒部峡谷の下の廊下の水平歩道は通行制限があると同時に監視員が安全を見守っていたりしている。東北の飯豊連峰を訪れた際に、この奥深い山の登山道が綺麗に整備されていることに驚いた。麓で会った草刈り機を担いだ青年に伺った処、燃料代程度の手当はあるもののほとんどボランティアで登山道の整備を行っているとのこと、驚かされた。その一方で、近郊の山ではいたる所に踏み跡が残され道迷いの原因になる一方、自然災害などで整備の追いつかない谷筋や人の通わない道が増え続けている。山のエコシステムを考えるのであれば、これ以上の登山道は求めるべくもなく、必要以上のコースは計画的にクローズしていくべきだと考えている。

登山道を考えていく中で環境省が全国に整備している「遊歩道」について皆さんはどの様に理解されているだろうか。「遊歩道」は環境省が主導で1970年の東海自然歩道の整備に始まり九州・中国・四国・首都圏・東北・中部北陸・近畿と8つの自然歩道がこれまでに整備され、現在、北海道自然歩道と東北太平洋岸自然歩道の整備が進められているとのことである。総延長は2万7千kmにもなるらしい。「遊歩道」の目的は“四季を通じて手軽に、楽しく、安全に自らの足で歩くことを通じて、豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的とした歩道です。”と、定義されている。整備された「遊歩道」は各都道府県が維持管理を行っているので、登山道の整備とは切り離して考えられそう

であるが、錯綜しているコースも少なくない。従って、「遊歩道」と「一般登山道」の区分を管理という観点から明確に区分する必要があると考える。

「遊歩道」と「一般登山道」の整理をした上で善意とボランティアで保全されている山の道の管理責任についても曖昧さを払拭しておかなければならない。環境省が管理する公園内総てに徹底されているか否かは定かではないが、環境省の案内板で特筆すべきは、管理しているコースとそれ以外のコースを峻別していることである。屋久島モッコム岳登山口には明確にその事が掲げられている。(写真-1)ここに一つのヒントがある、それは、「遊歩道」以外の一般登山道は、整備はしているが自己責任で登山することを浸透させることであり、これを社会通念として理解していただく努力が必要だと感じている。これらは漠然として理解されている様で曖昧であり事故に遭遇して初めて論点となっている。

それでは「一般登山道」とは一体何かということになるが、一般的には国土地理院の提供する二万五千分の一の地図若しくは昭文社の山と高原地図に示されているものと理解されているが、これらも曖昧模糊としている。様々な事柄を整理する上でも環境負荷を考慮した「一般登山道」の定義に関する共通認識をいの一に作り上げなければならないと考えている。日本の山の自然環境の一端について述べてきたが、更に検討し取り組まなければならない多くの課題が山積している。亜熱帯化しつつある日本の山の自然環境が如何にあるべきかについて更なる議論が待たれる。



## 1. 最新情報

2021年2月17日 UIAA MedCom meetingがEミーティング形式で開催された。冒頭、最新のメンバーであるチェコのLenka Horakova、ネパールのNima Namgyal Sherpaが委員長のUrs Heftiから紹介された。

次いでUIAA理事の役割について、オブザーバ参加のUIAA理事のAmit Chowdhuryが発言した。彼ともう一人の理事Martin Lascanoは2021～2024年のUIAAの戦略計画をUIAA MedCom委員に熟知させるために参加した。UIAAは各国の山岳協会のために存在するのであって、UIAAはそのためにベストを尽くす必要がある。Amit ChowdhuryはUIAA MedComに対する一般的な要求として、以下の質問に対するUIAA MedComの回答をEメールで送るよう要求した。

- ◆どうすればUIAA MedComはUIAAにとってもっと重要な組織になれるか？
- ◆そのためにUIAA理事はどのようにUIAA MedComを援助すればよいか？

## 2. 計画

### 2.1 Water Disinfection in the Mountainsのビデオ

「Water Disinfection in the Mountains (No. 6)」のrecommendationをもっと分かりやすくすべき、カナダではヨードはもう売られていないし使われておらず、代わりに塩素を使用している。ネパールではヨードはまだ使われており使用可能である。生きるか死ぬかという差し迫った状況でのみ推奨すべき。不健康な水の取り扱いの重要性をもっと詳細に説明することが望まれるなどの意見が出された。Urs Hefti委員長は残念ながらビデオの容量をさらに増やすことはできないが、何とかそれらの意見を取り入れることを約束した。

### 2.2 女性と山

女性が指揮するワーキンググループが形成され、「Women at altitude (No. 12)」と「Contraception (No. 14)」のrecommendationを改定している。現在文献を再読し2021年3月までに最終の内容を決定する。栄養、心理学、閉経後の問題などの話題を加えている。心理学的側面として、特に危険の処理と決断についての文献を検索し、その後「Women at altitude」に書き加えるか否か決定する予定。今後この流れで、現存する「高所滞在中の子供たち」のrecommendationを改定する予定であり、依頼をしている。その計画グループに参

加したい委員はCaorol Kahounにメールで連絡するよう全員に伝えられた。

### 2.3 南アフリカで開催されるD i M MコースとUIAA MedCom 年次総会

南アフリカで開催されるD i M Mコースと一緒にUIAA MedCom 年次総会を2022年4月か8月に開催することが提案された。ワーキンググループ内でいつどれくらいの期間行うべきか意見を出し合い、Stellenbosch Institute for Advabced Study (S T I A S、南アフリカで感染を防ぎながら会議を進めることを援助する組織)に開催可能かもう一度問い合わせる。実現可能性についてD i M Mグループと一緒にチェックする必要もある。

## 3. Recommendations

### 3.1 一般的な更新

現時点で24種のrecommendationが有効である。それらのうちのいくつかは更新された。これらのrecommendationのほとんどは国際的な査読のある雑誌に発表されている。これから行うべきことは「Water Disinfection in the Mountains」(No. 6)、「People with Pre-Existing Conditions Going to the Mountains」(No. 13)、「Traveller's Diarrhea」(No. 5)の更新である。U I A A事務局は2021年中ごろまでに人気のある文書を読覧できるようWEBページを新しくすることを提案する予定。

### 3.2 提案されている recommendation:Medical Check for Traveling to High Altitude

高所へ行く人々の健康チェックをどうするか質問されることがある。そのrecommendationを提案するのは早すぎる。科学的検証の時間ももっと必要だが、未来には何か考えるべきである。

## 4. 次回の会合

I S M M学術集會に参加して非公式の会合を開き、2021年8月23日にトルコのTrabzonで開催予定のU I A A総会の前に年次総会を開催することが提案された。インターラーケンのI S M M学術集會は2021年6月14日～18日にハイブリッド形式で開催されるので、それも候補である。2021年の年次総会はZoom会議にすることが提案された。Urs Hefti委員長が賛成。2022年南アフリカで開催する会合は対面方式にする予定。

### 5. Medical Check for Traveling to High Altitude に対する上小牧提案

Medical Check for Traveling to High Altitudeに対しては、日本登山医学会登山者健診ネットワーク会議のデータを供出して、中高年登山者が安全に高所登山に行くための情報提供を行うことを提唱したいと考える。夏井委員長に相談し、それが可能か登山医科学委員会内で話し合いたい。

(医科学委員会常任委員 上小牧憲寛)



令和3年度  
第1回 Web理事会報告

日時：令和3年4月8日(休)  
14:00～16:25

場所 Web会議

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、山口、水村、前田、六角、唐木、古賀、山本、古林、小日向、安藤各理事、中島、古屋各監事

## 1. 開会

会長挨拶の後、事務局から理事23名、監事2名の出席が確認され、事務局がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

## 2. 議題

- (1)議案第1号 議事録の承認について  
2020年度第10回理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)議案第2号 JMSCA財務の健全性確保策について  
財務の健全性確保を考えるにあたり、財

務状況や外部環境の分析を行った。まず、内部分析として、過去8年間の正味財産比率、流動比率、経常比率、管理費比率、補助金等関与比率から財務状況を分析した。次いでコロナ禍、スポーツ政策、日本経済の動向、SDGs等から外部環境を分析した。その上で、本協会と同規模の公益法人との比較分析を行えば良いのだが、本協会のようなMulti Federationは他に無く、他のNFとの比較はしていない。これらの分析から今後の中長期的な視点で財務の健全性確保策の遂行に取り組むことが提示された。常務理事会で指摘された文言を一部修正して、全員一致で異議なく承認された。

- (3)議案第3号 スポーツ仲裁自動応諾に関する規程について  
スポーツ仲裁機構(J S A A)はC A Sの日本版であり、自動応諾は、ガバナンスコードにも示されている。選手の権利の救済であり、新規の規程である。全員一致で異議なく承認された。
- (4)議案第4号 第59回全日本登山大会・新潟大会延期と今後の対応について  
主管の新潟県山岳協会からコロナ禍の状況から延期決定通知が届いた。決定はあくまで主催者であるJMSCAが行うものであり、先ず今年の第59回新潟大会の中止が採決され、異議なく承認された。

2022年の高知大会が第59回、2023年の千葉大会が60回、新潟には2024年の第61回大会開催を依頼することで決議。準備段階で発生した経費は本会が負担。別途、全日本登山大会の在り方について、登山普及情報交換会で議論されており、2023年の千葉大会から改革を図りたい。千葉の蛭田理事からは、計画概要の一部が示された。

- (5)議案第5号 令和3年度定時総会議事次第について  
6月20日開催の日程は決まっているが、コロナ禍の現状に鑑み、開催は対面か、オンラインか決めかねている。対面の場合は会議室の予約が必要であるが、パンデミックの状況によっては急遽オンラインに切り替えなくてはならず、市井の会議室では、数週間前であってもキャンセル料が発生してしまう。現在はJ S O Sビルの14Fを予約している。キャンセルの場合は8日前でもOKである。何れにしてもオンラインと対面のミックスでの開催も考えておかなくてはいけない。日程は6月20日、実施方法は、対面とオンラインの混合ということで異議なく、承認された。
- (6)議案第6号 第4回C J C日程について  
6月5日(土)～6日(日)の日程を6月18日(金)～19日(土)に変更する提案があり、異議な

く承認された。

### 3. 報告

- (1)報告第1号 次期役員候補者について  
亀山役員選考委員長から経過報告があった。  
会長候補者には丸誠一郎氏(現副会長)、監事候補者には中島正喜氏(現監事)、古屋壽隆氏(現監事)が選ばれたと報告。理事候補者の決定は後日になる。
- (2)報告第2号 審判・ルートセッター昇級について  
A級審判員2名(平野直子、片山健太)、A級競技ルートセッター1名(杉田雅俊)、B級競技ルートセッター1名(堀創)の認定承認が報告された。
- (3)報告第3号 3月度月次会計報告  
相良理事より暫定数値という事で資料に基づいて報告があった。
- (4)報告第4号 I F S C 会長からの要請について  
平山副会長より、コロナ禍で各NFからの来日は難しい。日本代表のトレーニング、セッターのセットの指導などアイデアは出た。日本代表の合宿の様子を動画にしてWeb seminarの形で質疑応答を行ったらどうかと考えている。予算は300万円程度なので限られてくる。年内には行いたい。  
関連してI F S C、J M S C AのC A S仲裁費用についても話題に上った。C A S仲裁のJ M S C A側の総経費は、6,904,894円との報告があった。
- (5)報告第5号 第34回L J C (印西) 報告について  
村岡理事より資料に基づいて報告があった。
- (6)報告第6号 第14回山岳スキー競技日本選手権報告について  
唐木理事から口頭で報告があった。雪不足、雨天等の悪条件ではあったが、ほぼ予定通りに無事終了した。
- (7)報告第7号 国体功労者表彰対象者推薦について  
推薦条件が厳しくJ M S C Aにおいて該当者を見つけるのは難しい。もし、該当者をご存じなら5/14までに連絡をいただきたい。

- (8)報告第8号 国内旅行保険包括契約(加盟団体向け)について  
対象の保険商品として3保険について説明があった。既に各岳連(協会)に通知しており、研修会・講習会で適用になる。開催日程が変更または中止の場合は、主管岳連(協会)の申込時点で通知すればよい。
- (9)報告第9号 I F S C - A C C 総会  
3月19日午後6時より、I F S C アジア大陸連盟総会が開催された。  
次期(2021-2025)役員選挙では、2名が以下の役職に決定した。  
・岡野寛: スポーツデパートメント、ルートセッター委員長  
・水村信二: 副会長(東アジア)  
A C Cの会長は中国の李致新(リーチン)、筆頭副会長は前会長のアンソニー。
- (10)報告第10号 I F S C オンライン会議報告  
ロシアにおける世界選手権ではユースは開催可能であるが、大人の大会は開けないとのこと。但し、C A S判断前に決まっていた大会はW A D Aの判断に委ねられている。
- (11)報告第11号 遭対委員会・登山医科学委員会常任委員について  
2021年度遭対委員会委員(10名)  
常任委員 委員長: 町田幸男(群馬) 副委員長: 服巻辰則(神奈川)、石田英行(大阪)、中丸忠男(神奈川)、榎昭善(東京)、井上哲也(神奈川)、青山千彰(大阪)、島添誠(兵庫)、角田守(群馬)、宮下直人(茨城)  
2021年度 医科学常任委員(8名)  
委員長: 中島隆之、副委員長: 上小牧憲寛、原田智紀、常任委員: 憲秀彦、角田元、斎藤繁、三浦裕、江村俊也
- (12)報告第12号 C A S 仲裁判断を受けて今後に向けた報告について  
合田常務理事から資料に基づいて報告があった。HP、月報には掲載済である。  
総括は難しいが、提訴するべきではなかったという意見があるが、個人的には提訴してよかったと思う。戦わずして認めてしまうのはNFとしては良くない。1年以上、選手を不安定な状態にしたこと

- とは反省しなくてははいけない。
- (13)報告第13号 名義後援承認・登山医学会について  
小野寺常務理事より報告があった。
- (14)報告第14号 第2期パリオリンピック強化選手選考について  
コンバインド男女各8名、スピード男女各3名の強化選手の報告があった。
- (15)報告第15号 第3期パリオリンピック強化選手選考について  
第3期(2021年11月1日~2022年3月31日)の強化選手選考について報告があった。
- (16)報告第16号 2021年度リード日本代表選手選考について  
男子11名、女子12名の代表選手の報告があった。
- (17)報告第17号 世界選手権モスクワ大会代表選手選考について  
古林理事から報告があった。
- (18)報告第18号 帰国後14日間の練習緩和措置について  
古林理事からバブルを設置して隔離する報告があった。
- (19)報告第19号 第9回L Y C要項について  
村岡理事から報告があった。
- (20)報告第20号 佐賀県との連携協定について  
佐賀県では、2024年の佐賀国体を機に佐賀から世界に向けたトップアスリートを送り出そうというS S P構想を掲げている。県民の一人一人が「する」「みる」「ささえる」でスポーツに関わろうとするこの構想をJ M S C Aと連携・協力しながら振興を図りたいという佐賀県からの依頼である。協定の内容についてはガバナンス委員会に諮る。
- (21)報告第21号 役員派遣について  
(4月9日(金)~5月13日(木))  
(1)第13回噴火時等の避難計画の手引き委員会 4月15日(木) 於: オンライン  
尾形専務理事  
(2)国立登山研修所友の会役員会 4月19日(月) 於: オンライン  
尾形専務理事  
(3)I F S C総会 4月23日(金)~24日(土) 於: オンライン 平山副会長、水村理事、(小日向理事)  
(4)第7回ボルダリングユース日本選手権大会 4月24日(土)~25日(日) 於: 鳥取県立倉吉体育文化会館  
八木原会長、平山副会長  
(5)I S M F総会 5月7日(金)~9日(日) 於: オンライン 笹生委員長
- 4. 会務・役員派遣**  
(3月12日(金)~4月8日(木))  
(1)東京2020オリパラ国内競技団体協議会 3月12日(金) 於: オンライン  
尾形専務理事  
(2)令和3年度安全登山指導者研修会引継会議 3月13日(土) 於: オンライン  
尾形専務理事、水島常務理事  
(3)J S P O加盟団体代表者会議 3月17日(木) 於: オンライン  
八木原会長  
(4)スポーツ安全協会評議員会 3月18日(木) 於: オンライン

## 寄贈図書

会報	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.516 202104
	(公財)京都府スポーツ協会	「京都府スポーツ時報」No.135
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第646号
	日本山岳会山梨支部	「甲斐山岳」第12号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2021年4月 No.375
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」2021年4月号 No.37
	やまびこ山想会	「やまびこ」第193号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1094
	(公社)日本山岳会	「山」2021年4月号 No.911
	(公財)スポーツ安全協会埼玉支部	「スポーツ埼玉」Vol.290
寄贈本	(一社)パラスポーツ推進ネットワーク	「+Paranet(プラスパラネット)」Vol.4
	三峰山岳会	「岩つばめ」No.364
記念誌	(株)ナカニシヤ出版	「未踏峰と三江併流-ヒマラヤの東、最後の辺境-」中村保教育の現代的課題シリーズ「自律的思考を促すスポーツ・インテグリティ教育—理論と実践の構築を目指して—」
	静岡大学現代教育研究所	
雑誌	日本スポーツ芸術協会	「Sport Art 2021」
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」5月号 No.887
新聞	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」5月号 No.1034
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」5月号 No.555
	(株)シマノ	「Fishing Café」Vol.68
	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2321号、第2322号、第2323号

尾形専務理事

- (5)神奈川県スポーツ施設指定管理者評価委員会 3月18日(木) 於:神奈川県立山岳スポーツセンター 小野寺常務理事
- (6)IFSC Asian Continental Council 総会 3月19日 於:オンライン 平山副会長、水村理事、(小日向IFSC副会長)
- (7)役員選考委員会 3月20日(土) 於:オンライン 亀山副会長他
- (8)国立登山研修所スタンダードマニュアル検討委員会 3月25日(木) 於:オンライン 尾形専務理事
- (9)第34回リードジャパンカップ 3月26日(金)~28日(日) 於:印西市松山下公園総合体育館 八木原会長、平山・丸副会長
- (10)JSP O競技団体評議員連合会幹事会 3月29日(月) 於:JSPS 12F大会議室 尾形専務理事
- (11)佐賀県SSP構想打ち合わせ 3月29日(月) 於:オンライン 平山副会長、尾形専務理事、村岡・水村理事、安井委員長
- (12)役員選考委員会 4月2日(金) 於:オンライン 亀山副会長他
- (13)第14回山岳スキー競技日本選手権大会 4月3日(土)~4日(日) 於:長野県北安曇郡小谷村 梅池高原スキー場周辺 八木原会長、丸副会長、唐木理事

表紙のこぼ

今月の表紙写真は、ガッシャープルII峰(8,035m)写真右。南ガッシャープルム氷河から見上げると左のIV峰の方が格式高く見える。1956年オーストリアのF.モラベックら8名が南西稜に取り付き、7月7日に3名が初登頂した。

筆者が登頂したのはそれから41年後の1997年。BC付近で1976年の日本隊で遭難した遺体が氷河上に出てきたり、南西稜から東稜にトラバースするところには外国人の遺体が横たわるなど、気味の悪い遠征であった。表紙写真のもう1枚は、GII頂上の鯉のぼり。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

昨年末から募集していた日山協共済会の名称とマスコットの名称が4月13日開催の拡大共済委員会で協議の末、決定しましたのでお知らせします。

共済会名称:『ジムスカ保険』  
マスコット愛称:『MAMoL マモル』

(Mutual Aid for Mountain Lover)

和歌山岳連・白子理事長の提案で「山好きの相互扶助」という意味です。会員の皆様には名称一新を弾みにジムスカ保険「MAMoL マモル」の加入促進を宜しくお願い致します

(広報担当 水島彰治)



**トレランJAPAN**  
一般社団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031  
品川区西五反田6-3-23-205  
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

**登山月報 第626号**

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 令和3年5月15日  
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
Japan Sport Olympic Square 807  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
FAX 03-5843-1635

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



6  
月  
号  
発  
売  
中

**【特集】ひとりで登る山**

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

**年間購読がおすすすめです。**

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 **12冊**

~~10,560円~~ (税別)

11,616円(税込)

➔

年間購読なら **12冊**

**9,680円** (税別)

10,648円(税込)

1冊分  
おトク!



44サイズが入る!

**岳人 トートバッグ**

丈夫な帆布製でマイバッグとしても重宝します。

▶サイズ: 幅36×高さ37×マチ11cm

年間購読特典

全国1,900カ所以上で  
ご優待!

岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから! >>> <https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ

モンベルポスト

☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

14

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからもお申込みいただけます